

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「キッズクラブぐんぐん」スタート

八峰町、藤里町、三種町の5歳児クラスの園児を対象に「キッズクラブぐんぐん」がスタートしました。文字や数に親しむ活動やルールのある集団遊びを通して、小学校生活にスムーズに移行するとともに、入学への期待感を高めることがねらいです。

1 実施期間、時間、場所

- ・令和5年11月～令和6年3月 月1回（計4回）
- ・午後1時30分～午後2時30分 各園の5歳児クラス及びホール

2 指導者

- ・特別支援教育統括コーディネーターと5歳児クラス担任

3 主な活動内容

- ・文字や数の基礎的概念（運筆練習、色や形、大小・長短・多少、数や量の概念、なぞり書き、点つなぎ、しりとり、なぞなど、読み聞かせ等）
- ・ルールのある遊び（イス取りゲーム、伝言ゲーム、フラフープリレー等）
- ・小学校の先生のお話（小学校生活や頑張してほしいこと）

4 当日の流れ（45分程度）

- (1) はじめの会（挨拶や返事、自己紹介、本時の確認）
- (2) チャレンジⅠ（文字や数の基礎的概念に関する活動）
- (3) チャレンジⅡ（ルールのある集団遊び）
- (4) おわりの会（感想発表、次時の予定）



11月24日（金）、藤里幼稚園で初めて実施しました。はじめの会では、座り方（グー・ペタ・ピン）の練習や自己紹介をしました。チャレンジⅠでは、部屋にある具体物を活用して物の大小・長短・多少を比較した後、プリント学習に取り組みました。チャレンジⅡでは、タンプリンをたたいた数を聞いてグループを作ったり、フラフープを使ったゲームに挑戦したりしました。



感想発表では、100点を取ったことやみんなで力を合わせてフラフープゲームをしたことが楽しかったと話していました。手をつないだ状態でフラフープをリレーする集団遊びでは、子どもたちが互いに声を掛け合い、教え合う場面が見られました。

子どもたちに苦手意識を与えないようにすること、子どもの知りたい・書きたい・学びたいという気持ちを引き出すこと、聞く力・考える力・協力する気持ちを高めること、キッズクラブぐんぐんでの学びを普段の生活の中で生かせるようにすることを大切にしています。



とれたて直送便



～ワーキングメモリに配慮した話し方～

ワーキングメモリに弱さがある子どもは、長い指示や説明を理解しにくい、言われたことを忘れるなどの困り感があるため、教室全体を聞きやすい環境にする（静けさは最大の支援）、注意の集中を促してから指示や説明を短めに伝える支援が有効です。もう一つ「とっておきの支援」を紹介します。人は最後の言葉が残りやすいので、「この曲を聴いてほしいと思います」だと、「思います」しか残りません。「この曲を聴きます」に変えると、子どもは今やることははっきりして具体的に動くことができます。最後の言葉を何にするか意識しましょう。